

学生部が主催した「専修大学マイボトルデザインコンテスト」の学内投票による最終結果が発表され、最優秀賞は牟田美波さん(国コミュ2)の「Senaburポトル」に決まった。

学内に設置されているウォーターサーバーを身近に感じてもらう、プラスチックゴミの削減などにつながることを目的に初めて開催された。ステンス製のポトル(350ミリ)に印刷されるデザインで、31点の応募があった。

牟田さんは、「専大ら



受賞を喜ぶ牟田さん

品はオリジナルグッズとして商品化され、本学購買会などで販売している(1200円+税)。

10月20日、神田キャンパスで表彰式が行われ、審査委員長の田澤元章法學部教授から賞状が、販売する専大センチュリー岡嶋紀夫営業部長から記念品が授与された。

田澤教授は「学生たち、環境意識の啓発をデザインとして具現化するという難しいテーマに果敢に取り組んでくれた。牟田さんの作品は持ち歩いて楽しいデザイン」と総評した。

マイボトルデザインコンテスト

最優秀賞に牟田さん

(国コミュ2)

▲最優秀賞のデザインポトル



榎田准教授の功績しのぶ

社会科学研究所 公開シンポジウム

社会科学研究所(樋口博美所長)の公開シンポジウム「労働と社会をめぐる歴史研究の現在とその継承」が、10月12日、神田キャンパスで開かれた。2024年に急逝した榎田大知彦経済学部准教授の業績を振り返るとともに、社会科学の研究領域の一つ「労働」をテーマに議論を交わした。

榎田准教授の研究分野はワイマール期(1919~33年)のドイツ労働組合史。著書の『ワイマール期ドイツ労働組合史 職業別から産業別へ』(2009年、立教大学出版会)で第16回社会政

森氏は「政治的イデオロギーを排除し、政治のロジックとは別に、労働者の視点から労働史を研究した」と榎田准教授の研究者としてのスタンスを論じた。また、栗原氏は自身の研究(イギリスの労働組合との共通性、異質性などから研究の意義を考察し、残された課題として日本の労働組合

の検討を挙げた。

恒木健太郎経済学部教授を交えたディスカッションも行われ、小野塚氏が「榎田准教授は、現代の日本で起きている社会分断について、いち早く察知し、警鐘を鳴らしていたのではないか」と功績をしのんだ。

加藤さんが優秀賞

日本心理学会 学部生・高校生プレゼンバトル

人間科学部心理学科4年次の加藤めぐみさんが、日本心理学会第89回大会の「学部生・高校生プレゼンバトル」でベスト

プレゼンター優秀賞(学部生の部)に選ばれた。

発表テーマは「不眠症で影響力の高い症状を選ばなければ、ネットワーク構造を考慮した上で介入する必要性を明らかにした。加藤さんは国里愛彦教授の計算論的臨床心理学研究室に所属し、計算論的アプローチについて学び、本研究に取り組んでいる。

学部生・高校生プレゼンバトルは日本心理学会若手の会主催の企画シンポジウム。高校生、大学生が自身の研究を発表する。今年度は、9月7日に仙台市で開かれた学会で開催された。



中山特任教授が奨励賞

日本環境共生学会 ネットワーク情報学部の中山俊特任教授が日本環境共生学会の2025年度奨励賞を受賞した。

受賞は「エネルギー・水・食料からみた都市の

炭素排出量の関係性を明らかにしている。新しい炭素会計手法や、ビル管理データを活用した精緻なエネルギー監査手法を独自に開発した点、さらにそれらを用いて都市の脱炭素化に向けた実践的な示唆を提示している点が高く評価された。

9月19日に開催された年次学術大会で表彰された。



専大松戸高合唱部 Nコン 初の金賞

10月11日に開催された第92回NHK全国学校音楽コンクール(Nコン)全国コンクール高等学校の部で、専修大学松戸高等学校合唱部が金賞を受賞した。

Nコンは、小学校・中学校・高等学校の児童生徒が参加する国内最大規模の合唱コンクール。同高合唱部は、昨年、初出場ながら全国コンクール銅賞を受賞。今年も関東甲信越ブロックコンクールで金賞を受賞し、全国に進んだ。

11校による全国コンクールでは、課題曲「惑星そぞろ」と自由曲「夢の潟湖(ラグーナ)」を披露。圧巻のハーモニーで、日本一の栄冠を初めて手にした。

最終講義のご案内

■佐藤雅幸 経済学部教授

日時: 12月18日(木) 4時限目(14:50~16:20)

場所: 生田キャンパス 10号館10301教室

選択に関する検討を行った。症状ネットワーク内で影響力の高い症状を選ばなければ、ネットワーク構造を考慮した上で介入する必要性を明らかにした。加藤さんは国里愛彦教授の計算論的臨床心理学研究室に所属し、計算論的アプローチについて学び、本研究に取り組んでいる。

学部生・高校生プレゼンバトルは日本心理学会若手の会主催の企画シンポジウム。高校生、大学生が自身の研究を発表する。今年度は、9月7日に仙台市で開かれた学会で開催された。



ハラスメントのないキャンパスへ

多くのハラスメント行為は、悪意からではなく、「相手への想像力の欠如」から生まれます。

最も危険なのは、都合の良い解釈です。「何も言わないから問題ないだろう。嫌なら言うはずだ」

相手が沈黙しているのは、立場上の遠慮、あるいはその場を収めるための努力かもしれません。相手に「嫌だ」と言う勇気や機会を与えない状況こそが、ハラスメントの温床です。

もし、あなたのお子さんと大切なパートナー、あるいは親友が、職場で、あるいは授業で、無遠慮な冗談や不当な扱いに傷ついていたら、あなたはどのように感じますか?

例えば、あなたのお子さんが授業で教員から「こんなこともできないのか」と大勢の前で叱責され、

誰かの大切なあなたへ

自信を失ってしまったとしたら? 例えば、あなたの親友が職場で上司や先輩から無遠慮な冗談を言われていたら? あなたの無自覚な言動が、誰かの大切な人を傷つけているかもしれません。

ハラスメント防止の第一歩は、相手への深い敬意と想像力を持つことです。そして、忘れないください。あなたもまた、誰かにとっての大切な人です。

ハラスメント行為は、これまであなたが築き上げてきた信用や名誉を一瞬で失わせてしまいます。「相手を自分の大切な誰かに置き換えた場合、同じ行動をするだろうか?」「家族や大切な人の前でも、今の自分の行動を堂々と見せられるだろうか?」

想像力を働かせ、ご自身の行動を見つめ直してみてください。教職員一人ひとりが高い倫理観と想像力を持ち、健全で安全なキャンパス環境づくりに取り組んでいけたらと思います。

(キャンパス・ハラスメント対策室員 山根 豊子)

キャンパス情報

無料▽申し込み締め切り11月21日(金)17時

円学生相談室(神田) TEL:03-3265-6216

井上裕氏(いのうえ ゆたか) 元経営学部教授 7月3日、91歳で死去。1989年から2004年まで在職。専門は金融論。

望月教治氏(もちづき きょうじ) 元経営学部教授 11月2日、89歳で死去。1964~66年、84~96年、野球部の監督を務めた。65年の全日本大学野球選手権で初優勝を果たした。

キャンパス・ハラスメント対策室

TEL: 044-900-7858
E-mail: camhara@acc.senshu-u.ac.jp